〔ILiS〕共同研究コンソーシアム 第1弾！

ILiS-IT プロジェクト

「中食」である市販弁当・持ち帰り惣菜喫食者の栄養・健康管理ITシステム

メンバー

茨城キリスト教大学	：	川上美智子 教授（研究代表者），大和田浩子 教授
茨城大学	：	増澤徹 教授，鎌田賢 教授，尾関和秀 助教授，木村孝之 助教授 佐々木稔 講師
筑波技術大学	：	深間内文彦 教授
茨城県工業技術センター	：	冨長博 技術基盤部門長
中嶋メディカルサプライ（株）		
（株）カスミ		

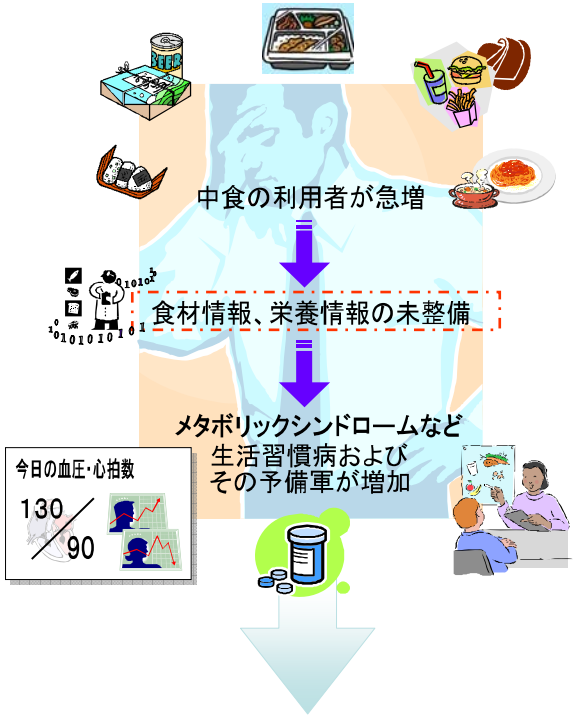
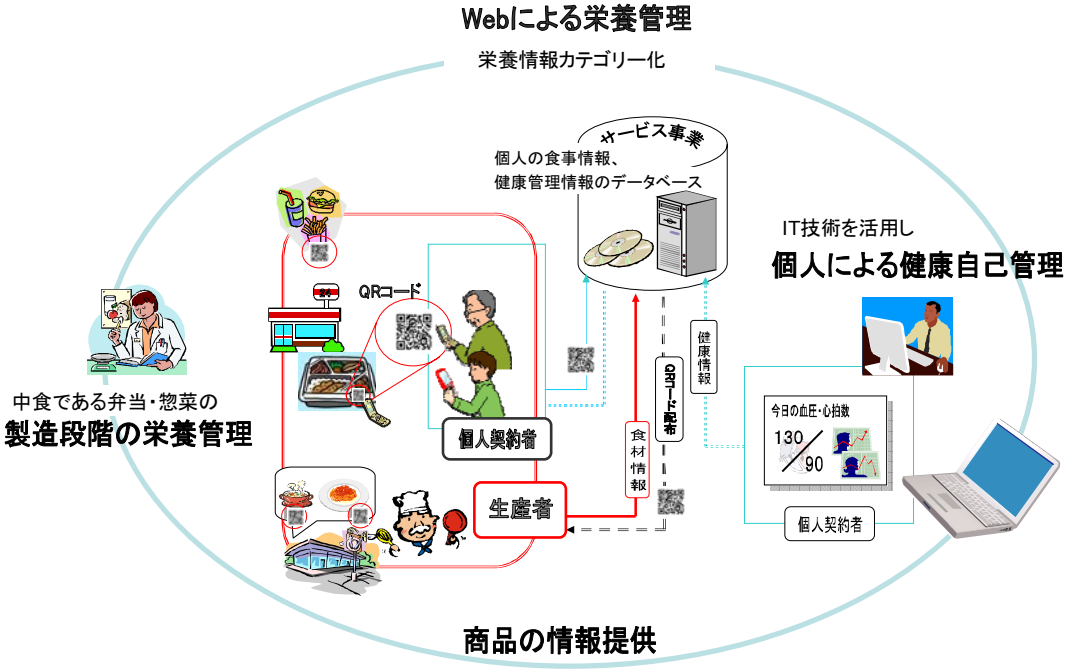
現代医療の発展は寿命の延長をもたらしているが，反面，医療費の高騰，非生産的人口の増加をもたらしている．その解決法の一つとして予防医学が注目されており，特に，毎日の栄養摂取に直結した食生活に着目した健康管理・維持が重要になってきている．しかしながら，現在の食生活は大きく変容し，外食，買い食の管理が難しく実体上困難な面が多い．最近では，食の簡便化や小家族，単身者の増加に伴い，日本人の食事形態が大きく変化し，日常食としていわゆる「中食」を摂取する人が増えている．そのため，中食の栄養管理と消費者への適切な情報提供,さらに情報を踏まえた摂取者の食の自己管理が急務となっている．これを解決する手法として，食生活情報の収集，データベース化に着目し，流通システムの発展に伴い，多様化している現代人の食生活に対応した新しい健康管理サービス産業の創出を行うことを提案する．この事業の実用化で，スーパー，飲食店で販売されている弁当，惣菜を対象としたサービス産業の創出が期待できる．
本研究では，2005年に設立された茨城ライフサポート（ILiS）コンソーシアムの参加団体である産学官が連携を組んで，中食の栄養管理，栄養表示，バーコードによる栄養情報提供，栄養・健康管理ITシステムの構築を目指す．

研究目標

中食の栄養管理、栄養表示、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞによる栄養情報提供、栄養・健康管理ITシステムの構築を目指す。

①中食の科学的根拠に基づいた栄養検証と新商品の開発

②個人健康情報管理システムの構築

③食材、献立を栄養価等に基づくカテゴリー化、データベース化と外食産業との連携

④健康情報の収集端末やホームユース健康管理ロボットの創製